

東日本大震災復興支援

コンサート2013

報告書

～ 福岡より復興の願いを込めて～

福岡市職員音楽会実行委員会では、平成25年9月7日（土）、福岡市中央区のあいれふホールにて「第6回夏の思い出コンサート（福岡市職員音楽会）」を東日本大震災チャリティとして開催し、来場者等から募金をいただきました。

そこで、昨年に引き続き、当実行委員会では復興支援として、その募金を東北の地で直接お渡しするとともに、被災地（女川町・石巻市・仙台市宮城野区・山元町）の仮設住宅など5ヶ所を訪問し、自分たちに出来る音楽で、被災地の皆様に対して少しでもお役にたてればとの思いでコンサートを開催しました。

開催期間：平成25年12月7日（土）～8日（日）

演奏団体：福岡市職員音楽会実行委員会

| | | |
|--------------|------------------|--|
| 12月7日 (土) | 11:00～ 14:00～ | にっこりサンパーク仮設住宅 集会所 石巻市北上町十三浜小田93-4 女川町地域福祉センター2階 宮城県牡鹿郡女川町豊浦字堀切山51-7 |
| 12月8日 (日) | 10:30～ 13:30～ | 福田町南一丁目公園仮設住宅 みんなの家 仙台市宮城野区福田町南1丁目7-1 仙台港背後地6号公園仮設住宅 集会所 仙台市宮城野区由野田由110 |
| 12月9日 (月) | 10:00～ | 山元町立南保育所ホール 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100-1 |

- 参加者
♪福岡市職員音楽会実行委員会
- フルート：井料田 充
(会計室審査課)
- ピアノ：田村 亮祐
(保健福祉局保護課)
- ボーカル：水清田 俊介
(博多区保護第2課)
- ♪挨拶等：井上 京子
(早良区社会福祉協議会)
- ♪賛助出演
フルート：前田 美弥子
- 福岡市職員音楽会実行委員会
この会は、福岡市役所や関係職場の職員の音楽を愛する仲間が集う有志（アマチュア）の団体です。
毎年、夏の終わりに「夏の思い出コンサート」と題して主催

- 演奏曲目
- ♪あまちゃんオープニングテーマ / 作曲：大友良英(ピアノ)
- ♪アイネ・クライネ・ナハトムシーク / モーツァルト (フルート三重奏)
- ♪スタンド・バイ・ミー / ベン・E・キング (ボーカル・フルート・ピアノ)
- ♪また君に恋している / 作曲：森正明(フルート・ピアノ)
- ♪クリスマス・ソング・メドレー(フルート二重奏・ピアノ)
- ♪花は咲く / 作詞：岩井俊二 作曲：菅野よう子(全員)
- ♪ふるさと / 作詞：高野辰之 作曲：岡野貞一(全員) など

高島 宗一郎福岡市長からもチラシにメッセージをいただきました

今回、福岡市職員の有志による復興支援コンサートの開催に当たりご挨拶を申し上げます。
平成23年3月の未曾有の大震災により、多くの貴い命が失われ、現在もなお多くの方が避難生活を余儀なくされておられます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

福岡市としましても、被災地支援のための職員の派遣や、被災された方々への市営住宅のご提供などを継続して行っているところです。

さて、昨年12月にも福岡市職員の有志により被災地を訪問してコンサートを開催しました。参加したメンバーは、地元の方から震災当時の状況や現在の課題などのお話をお伺いし、被災地の光景を目の当りにして、福岡で現状を伝えることが重要だと強く感じ、今年9月に開催した「第6回夏の思い出コンサート」において報告を行っております。

今回の演奏者である職員は、もちろんアマチュアの演奏家ですが、自分たちに出来る音楽で、被災地の皆様に対して少しでもお役にたてればとの熱い思いを持ってコンサートを開催しますので、多数の皆様にご来場いただき、楽しんでいただければと思います。

最後になりましたが、本日の演奏会の開催にあたり、ご協力・ご尽力いただきました関係者のみなさまに心より御礼

12月7日(土)11:00～ にっこりサンパーク仮設住宅 集会所(石巻市北上町)



阪神・淡路大震災の設計で建てられた仮設住宅は、東北の寒さでは厳しい生活環境とのことでした。

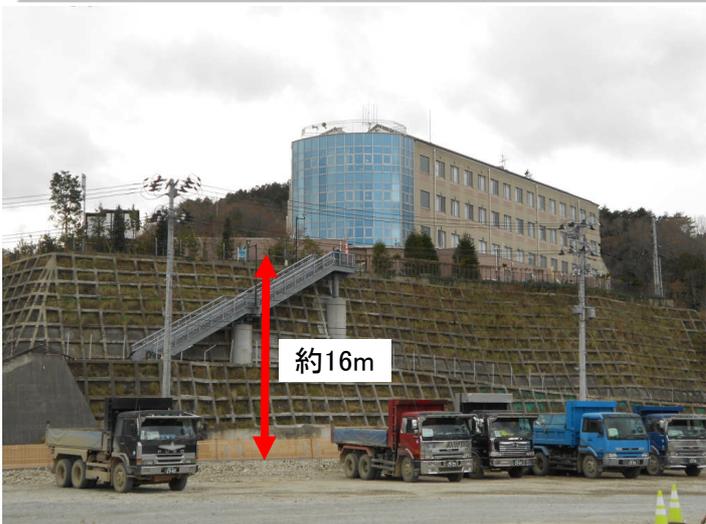


移動販売車での買い物は、仮設住宅のお年寄りにとっては楽しみの1つだそうです。



クリスマス・ソング・メドレーの演奏では被り物で演出しました。両端の二人は決して”クワガタ”ではありません。

12月7日(土)14:00～ 女川町地域福祉センター2階 (宮城県牡鹿郡女川町)



コンサートの会場の女川町地域福祉センターは海拔約16mの高台にあり、これからさらに約2mの高さの津波が押し寄せたとのことでした。



倒壊した建物の前に震災前の写真があり、普通の港の町並み、平穏な生活があったことに思いをめぐらせた時、熱いものがこみ上げてきました。



女川町の中心部にあり、被災のシンボリックな横倒しの建物も再開発のため取り壊しが決定したそうです。



女川町のコンサートの主宰者の木村裕さんは、フルート奏者でもあり、一緒にフルート三重奏で「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」を演奏しました。



元福岡市職員で、現在、女川町役場復興推進課に勤務されている魚川さんにもご来場いただきました。演奏中に見覚えのある顔だなとは思っていましたが、コンサート終了後に声をおかけいただき驚きました。



木村さんに女川の仮設住宅をご案内いただき、お話をお聞きすることができました。

12月8日(日)10:30～ 福田町南一丁目公園仮設住宅 みんなの家(仙台市宮城野区福田町南)



熊本県を中心としたプロジェクトで仮設住宅内に建設された「みんなの家」で演奏しました。薪ストーブはとても暖かく、初めて見たと言う参加メンバーもいました。



仙台白菜の漬物(地元では「おごご」と言われるそうです)をお茶うけに、震災当時のことや現状の仮設住宅の様子などのお話をお聞きすることができました。



今回、仙台市宮城野区の仮設住宅でのコンサート開催をお世話いただきました樋口典子さんと辻隆一さんです。

12月8日(日)13:30～ 仙台港背後地6号公園仮設住宅 集会所 (仙台市宮城野区中野)



多くの方にお越しいただき、集会所は一杯となりました。



来年の4月、「仙台フィルとうたう花は咲く合唱団プロジェクト」で、皆さんも歌われるとのことで大合唱となりました。また、アンコールのお声もいただきました。



＝伊達なカメ&伊達な福＝

津波で全てを失ったまさこさんに唯一残ったのは趣味で作った亀のキーホルダーでした。この亀にはきっと「福」がある！そう信じて仮設住宅の仲間と作り始めた「伊達なカメ」。新商品の「伊達な福」は宇和島の真珠を使っています。ひとつひとつ手作りで元気の出る言葉と一緒に届けます。

仙台港背後地6号公園仮設住宅 チームはぎ

コンサート終了時に自治会長さんから仮設住宅の皆さんが手作りした「伊達なカメ&伊達な福」のキーホルダーをいただきました。「伊達な福」はフクロウです。中には5円玉が入っているとのこと。自治会長さんからはいただく際に次回に来るときは「倍返し」とのことでしたので、5円玉2枚を用意しなければならなかったと思います。

12月8日(日)15:00～ 仙台市の荒浜地区の被災地



荒浜小学校

樋口さんと辻さんに仙台市の荒浜地区にご案内いただきました。ここに多くの家が建っていたことが信じられない光景です。



観音菩薩像の位置

荒浜地区で亡くなられた方を追悼する観音菩薩像です。慰霊碑には、震災で犠牲となられた方々の名簿があり、中に公務中に津波で亡くなられた若林区役所職員2名の名前もありました。



荒浜小学校

震災前の荒浜地区

12月9日(月)10:00～ 山元町立南保育所ホール（宮城県亶理郡山元町）



真ん中の方が山元町でお世話になりました山元町役場坂元支所長の岩佐孝子さんです。



JR常磐線の山下駅があったところです。駅前には住宅があったそうです。



元田畑だったところは除塩作業が少しずつ進んでいました。



JR常磐線の坂元駅のホームがあったところです。この線路は廃止して山側に新たに敷設されることでした。



被災当時の駅の様子の写真が掲示されていました。高架橋で十数名が助かったとのことでした。



元の坂元駅前の通りには住宅が並んでいたそうです。今の風景からはうかがいしる事ができません。



元山元町立中浜小学校です。学校建設時に1mかさ上げのところ、建設業者の計らいで2mかさ上げしたことが児童や先生の全員の命を救ったのだと話されていました。



津波は2階の天井部分(矢印のところ)まで達し、児童や先生は全員3階の三角部分に避難して無事だったそうです。

12月9日 河北新報社本社に募金を寄付



仙台市内の河北新報社本社で「第6回夏の思い出コンサート」などで集まった募金を寄付しました。



山元町では震災の記念館とする予定だそうです。

河北新報社へ
 義援金を寄託
 した皆さま
 敬称略

有志

▽5万2388円 福岡市職員音楽会実行委員会
 7434円 かきたROV
 400円 みやぎの大学フールカレッジ校学生一同
 2千円 菅原香名子
 1万円 仙台市社会学級研究会
 6千円 72年イタリア班

●本社分

平成25年12月14日河北新報朝刊

最後に

東日本大震災から2年9カ月が経ち、福岡において話題となることもほとんどなくなったと思います。

今年、被災地を訪問して、去年は所々にあったガレキや自動車の山積みなどは見受けられなくなり、復興住宅の建設なども進んでいるようでした。

昨年12月に初めて訪問した際は、家屋の基礎や鉄筋がむき出しとなったビル跡などが残る荒涼とした市街地、鉄道の架橋が倒壊した光景から津波のパワーに圧倒され、そこで多くの方が犠牲となられたこと、その更地となっている土地には多くの方々の生活の営みがあったことを思い浮かべて、やるせない気持ちになったものでした。

しかし、今年は仮設住宅にお伺いして被災された方々から直接、震災当時の惨状、仮設住宅でのご苦労、現状の課題などのお話をお伺いすることで、被災された方々にとって長年住み慣れた土地への愛着や生活習慣、コミュニティに対して様々なお気持ちがある一方で、津波への恐れもあることからそれを再建計画として1つの方向にまとめていくことは大変難しいことだなと感じました。

今回、私どもの拙い演奏をお聞きいただくと共に、「花は咲く」「ふるさと」をご来場の皆様も一緒に歌っていただき、保育所の園児たちと一緒に合奏したりすることで一体感も生まれ、音楽の持つ力をあらためて再認識しました。

また、私たちが訪問させていただきコンサートを開催することは、「仮設住宅内の集まるよい機会となり有意義なこと」と自治会長さんからもお話をいただきましたが、僭越ながら私どものコンサートも幾ばくかお役に立てたのではないかと考えています。

福岡に帰って今回の経験を振り返る時、公務員としての使命や責務が何かと取り沙汰される昨今ですが、公務中に震災で亡くなられた市町村及び区役所職員の無念を思って真摯な気持ちとなり、機会があれば一度は被災地を訪問して現地の方々との交流を図っていただければと思いましたし、今回の音楽による復興支援について、今後も継続していければと思っています。

最後に、「東日本大震災復興支援コンサート2013」の開催にあたり、会場の手配や連絡調整・キーボードの借用・チラシ配布によるPR、マスコミへに広報などご尽力いただきました石巻市の落合早苗様、女川町の木村裕様、仙台市の樋口典子様、辻隆一様、コンサートを快く受け入れていただき心からの「おもてなし」をいただきました仮設住宅などの皆様、その他の多くの方々に感謝申し上げますと共に、そのご厚意にお応えするためにも、私たちの体験はほんの一部かもしれませんが、福岡の地で被災地の現状などを伝えたいと思っています。

福岡市職員音楽会実行委員会会長 井料田 充(福岡市会計室審査課)